

事務事業名	白根桃源美術館維持管理事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12476								
			所属課室	市立美術館		課長名	秋山弘								
	☐ 実施計画事業		所属担当	美術館総務		担当者名	秋山弘								
基本政策	基本計画	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目					
政 策	22	生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	4	0	1	0	2	0	0	4
施策	35	生涯学習システムの推進		☐ 国の制度による義務的事業	☒ 施設等維持管理事業										
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業										
				☐ 市の制度による義務的事業	☐ その他の事業										
			☐ 義務化されている協議会等の負担金												
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 3 年度)		法令根拠												
☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)															
事業の内容・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 1. 事業内容 美術館の環境を整備し、来館者が気持ちよく作品を観覧できるようにする。 また、収蔵作品がよい状態で保管できるように維持管理を行う事業。	事業費の主な内訳 (22年度)														
	項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)								
	賃金		4,324												
	需用費		657												
	役務費		343												
	委託料		863												
	使用料及び賃借料		72		計				6,259						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	美術館及び周辺の維持管理、付属展示室の貸出等
23年度活動予定	美術館及び周辺の維持管理、付属展示室の貸出等
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
白根桃源美術館	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
施設を良好な状態に維持する。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
市民、県内外の観光客等により良い環境で芸術文化に親しんでもらえる美術館にする。	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 施設・設備維持管理業務委託先の数	社
イ	
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 美術館の広さ	m
イ	
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 要望・苦情の件数	件
イ	
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 美術館への来館者	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	189	143	100	100	100	
		一般財源	千円	6,090	6,116	6,615	6,097	6,000	
	事業費計 (A)		千円	6,279	6,259	6,715	6,197	6,100	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	720	720	720	720	720	
		人件費計 (B)	千円	3,212	3,212	2,853	2,853	2,853	0
	(A) + (B)		千円	9,491	9,471	9,568	9,050	8,953	0
活動指標		ア 社		6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	
対象指標		ア m		1,618.0	1,618.0	1,618.0	1,618.0	1,618.0	
成果指標		ア 件		1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
上位成果指標		ア 人		2,195.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和56年に当時の白根町長が県内の市町村公立美術館の先駆けとして開館
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	教育施設再配置検討委員会の答申が出たので今後検討していく
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	市民等から美術館統合のことについてどうなのかと言った質問があった

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている 【内容！】 ☐ 取り組みしていない 【理由！】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	付属展示室を市民に貸出し、多くの人に美術館を利用してもらうように努力している。 開館から約30年が経過し、建物等にも不具合があるためその都度修繕をしている。
H 22年度に実施した改革改善の内容	付属展示室の貸出し、付属展示室の修理

事務事業名	白根桃源美術館維持管理事業	所属部	教育委員会	所属課	市立美術館
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 市民の文化芸術に対する意識の向上	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 市民に、より良い環境で芸術文化に親しんでもらうため、維持管理の運営と展示等の企画が一体であったほうが、良い美術館を提供できる	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 美術館を良好な状態に保つため適切である	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある 【理由↓】 ☒ 向上余地がない 【理由↓】 展示室の明かり等も開館時間ギリギリにつける等努力している	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☒ 統合・連携ができない 【理由↓】 白根は付属展示室(ギャラリー)と郷土作家に特化した美術館のため統合はできない ☐ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 美術協会、生涯学習等での発表の場がなくなる	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 美術協会、生涯学習等での発表の場がなくなる
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 予算はギリギリでこれ以上削減は厳しい	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 現在、平日は臨時職員2名、土日に正職員、臨時職員、パートで対応している。事務所と受付が離れており、2人体制のためこれ以上の削減は困難である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 金額の高い委託に関しては数社から見積もりを徴するようにしている	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	市民の文化芸術に対する意識向上のために存続させる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について 入館者を増やす。 市民ギャラリーとしての利用者を増やす。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 広報の方法。幅広く広報を行う。 ギャラリー利用者の拡大。関係団体等への広報活動。	(5) 事務事業優先度評価結果 <table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td></td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td></td></tr> </table>	成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果																		
成果優先度評価結果																						
コスト削減優先度評価結果																						